

中国語における〈恋愛〉のメタファーに関する一考察 ——認知メタファー理論の立場から——

韓 涛

1. はじめに

これまで〈恋愛〉のメタファーに関する考察は、主に英語を対象として行われてきた (Kövecses 1986、1990、2003 参照)¹。一方、中国語における〈恋愛〉のメタファーに関する研究は未だ本格的に行われていないのが現状である。中国語話者は〈恋愛〉という複雑で抽象的な概念をどのように理解し、概念化しているのだろうか。本稿の目的は認知メタファー理論の立場からこの問題を明らかにすることにある。具体的には、①中国語における主な〈恋愛〉のメタファーとは何か、②〈恋愛〉のメタファーの基盤となっているのは何か、以上二点に焦点を当てて論じる。

2. 認知メタファー理論

認知メタファー理論に関する詳細な概説は Lakoff and Johnson 1980、1999、Lakoff 1993、Kövecses 2002、高尾 2003、鍋島 2011 などに譲ることにして、本節では認知メタファー理論の中から、特に本研究と関わりの深い「写像」(mapping) 及び「基盤」(grounding) の二つの概念を取り上げて概観する。

2.1 メタファーの写像

認知メタファー理論ではメタファーは一般に「起点領域から目標領域への写像である」と定義される。ここでいう写像は概略的にいうと起点領域と目標領域の間に形成される対応関係のことである。Lakoff 1987 によればこの種の対応関係は「存在的対応関係」と「認知的対応関係」の二種類に大別される。例えば、以下の図 1 と図 2 はそれぞれ中国語における〈怒りは火〉のメタファーの存在的対応関係と認知的対応関係 (の一部) を示している (詳

しくは韓涛 2010 参照)。

起点：火	目標：怒り
火を消す ⇒	怒りをおさめる
爆発する ⇒	怒りの尺度の限界点を超える

【図 1】 〈怒りは火〉における存在的対応関係

起点：火に水をかければ、火を消すことができる。

目標：怒った人に慰めの言葉をかければ、怒りをおさめることができる。

【図 2】 〈怒りは火〉における認識的対応関係

例：这番话就像一盆清凉的水，把太宗满腔怒火浇熄了。

[この話はまるで盥の中での清涼な水の如く、太宗の满腔の怒りを静めた。]

2.2 メタファーの基盤

メタファーの基盤²は概略的にいうと、『離れた 2 つの領域の写像』(メタファー)がどうして存在するかというメタファーの存在理由³のことであり、I.A.Richards の ground という用語に当たる(鍋島 2011: 39)。鍋島 2011 ではメタファーの基盤の種類として次の四種類を挙げている。

- (1) a. 共起性基盤
- b. 構造的基盤
- c. 評価性基盤
- d. カテゴリー性基盤

共起性基盤は経験的基盤、または身体性基盤とも呼ばれる。ふつう共起性基盤を持つメタファーはほかのメタファーより特定の文化から受ける影響が少ない。例えば、怒った場合には生理反応として体温が上がるという、この種の身体経験は普遍的であると言えるため、これに基盤を置く〈怒りは火〉のメタファーは特定の文化を越えて様々な言語においてみられる。しかし、共起性基盤では、なぜ〈金銭は水〉のようなメタファーが存在するのかを説明することができない。鍋島 2003、2011 では〈金銭は水〉の基盤となっているのは(〈連続体〉の)イメージ・スキーマであるとされ、形状基盤と合わせて構造的基盤の重要性を唱えている。また、「不潔な行為」「クリーンな政治家」などのモラル・メタファーから分かるように、評価性もメタファー

の基盤となりうる（詳しくは鍋島 2007 参照）。カテゴリー性基盤については鍋島 2011 ではその一種である高次レベルのオントロジ・スキーマがメタファーの基盤となりうることを認める一方で、カテゴリー性基盤は究極的に構造的基盤に還元されうるという見方をしている。

3. 中国語における〈恋愛〉のメタファーの多様性

恋愛などの感情ほど複雑で捉えにくい概念はないとよく言われる（治山 2006 参照）。その複雑さは〈恋愛〉を理解する際に用いるメタファーの数の多さからも窺える。〈感情〉のメタファー研究の第一人者である Kövecses 2003 によれば、英語には〈恋愛〉に関するメタファーが 20 以上あるという。英語話者同様、中国語話者が〈恋愛〉について理解し、語る際にも様々なメタファーを用いている。紙幅の都合上、筆者が収集したデータの中から観察されたすべての〈恋愛〉メタファーをここに提示することはできない³。以下、その中から主要なもの九つを選び、それらをメタファーの対応関係と共に示す。なお本節で用いるメタファー表現の具体例は CCL 語料庫、辞書、小説、インターネット検索などから集めたものである。

3.1 〈恋愛は熱〉

(2) a. 火辣辣/炽热的爱情

[熱烈な恋]

b. 怎样才能保证爱情的温度，让它持久恒温？

[どうすれば愛の温度を保つことができ、永久に冷めないようにすることができるか？]

例 (2) が示すように、〈恋愛〉は〈熱〉として概念化されうる。また、次の例 (3) が表すように、〈百度を超えれば液体が沸騰する〉や〈温度は常に恒温であるとは限らず、上がったたり下がったりする〉など、〈熱〉に関する様々な知識も〈恋愛〉を理解するに当たってメタファー的に転用されうる。

(3) a. 亲爱的，我爱你的热度已达到一百二十度了。

[ねえ、私の君に対する愛はもう百二十度に達したよ。]

b. 我们的爱情突然降温了。

[私たちの愛は急に冷めてしまった。]

c. 一场两个人的旅行，让我们的爱情升温。

[二人きりの旅は我々の愛を燃え上がらせる。]

以上を踏まえて、〈恋愛は熱〉における対応関係は図3のように示される。

起点：熱	目標：恋
二つのものの中で生じる熱	⇒ 二人の中で生じる愛
熱の高低	⇒ 愛の情熱の高低
熱を維持する	⇒ 愛を維持する

【図3】 〈恋愛は熱〉における対応関係

3.2 〈恋愛は火〉

抽象度の高い〈熱〉という概念が固体に適用されると〈火〉となる⁴。以下にみるように、〈火〉の領域を通して〈恋愛〉をメタファー的に捉えることも可能である。

(4) a. 如何点燃爱情？

[如何に愛を燃やすか？]

b. 我的爱情之火还在熊熊燃烧

[私の愛の炎はまだぼうぼうと燃えている]

また、その際に〈火〉に関する様々な知識、例えば〈一旦消えた火は条件が整えば再燃する〉、〈温度の高いもの同士が互いにぶつかり火花が出る〉、〈水をかければ、火を消すことができる〉なども〈恋愛〉の領域に写像される。

(5) a. 泰戈尔来华期间，徐志摩得以和林徽因再次接触，重燃旧情。

[タゴールが訪中の際、徐志摩は林徽因に再会することができ、再び恋に落ちた。]

b. 鸿雁传书，两颗年轻的心互相撞击着，迸溅出爱情的火花。

[文通の中で若い二人の心が互いにぶつかり合い、やがて愛の火花が飛び散った。]

c. 收到陆若冰的回信，犹如一盆凉水从天而降，…浇灭了林彪熊熊燃烧的爱情之火

[陸若冰の返事をもらうと、まるで一盥の水が空から降ってきたようだ。…（この水は）林彪のぼうぼうと燃え盛る恋の炎を消した]

以上のメタファー表現から〈恋愛は火〉における図4のような対応関係

が読みとれる。

起点：火	目標：恋愛
火の激しさの尺度	⇒ 愛の情熱の尺度
火が消える	⇒ 愛が消える
火が再燃する	⇒ 愛が再び生まれる

【図4】 〈恋愛は火〉における対応関係

3.3 〈恋愛は電磁気〉

(6) a. 她的眼睛太会放电了。

[彼女は本当に色目を使う (←放電する) のが上手だ。]

b. 触电般的感觉

[感電したような感覚]

c. 他就是对那个女孩不来电。

[彼はあの女の子には全く興味がない (←電気を感じない)。]

例(6)の“放電”や“触电”は本来物理学の用語であるが、ここではいずれも〈恋愛〉を表すのに用いられている。これは概念レベルにおいて、我々が〈電磁気〉を通して〈恋愛〉をメタファー的に理解している傍証となる。次の図5は両者の間にみられる対応関係を示している。

起点：電磁気	目標：恋愛
電磁気を放つ	⇒ 愛のシグナルを伝達する
電磁気を感じる	⇒ 愛を感じる

【図5】 〈恋愛は電磁気〉における対応関係

3.4 〈恋愛は脆いもの〉

(7) 难道爱情真的那么不堪一击吗? ……真的就那么渺小那么脆弱吗?

[愛は本当にそんなに衝撃に耐えられないのか。…本当にそんなに小さくて脆弱なのだろうか。]

例(7)が示すように、〈恋愛〉はまた〈脆いもの〉として概念化されやすい。我々は日常の中で脆いものは壊れやすいので、それらを取り扱う際は十分注意しなければならないという〈脆いもの〉に関する知識を持っている。次の例(8)が示すように、これらの知識は〈恋愛〉を表すのに用いられる。

(8) 爱情是易碎品，你有一千个理由小心轻放!

[愛は割れやすい物なので、注意して扱わなければならない千の理由がある！]

〈恋愛〉と〈脆いもの〉の間における写像は図6のように示される。

起点：脆いもの	目標：恋愛
ものの脆さ	⇒ 愛の脆さ
脆いものに対する扱い方	⇒ 愛に対する扱い方

【図6】 〈恋愛は脆いもの〉における対応関係

3.5 〈恋愛は食べもの〉

- (9) a. 不要不相信爱情也有保鲜期限。

[恋にも賞味期限があることを信じないことがあってはならない。]

- b. 而且这时候的爱情，大多是甜甜蜜蜜，真诚的！所以大家抓紧大学的时光尝尝爱情的味道吧！

[しかもこのときの恋はほとんど甘い純粋な恋。だから大学生でいる間にしっかり恋して（恋の味を味わって）下さい。]

- c. 我的爱就像一杯的苦咖啡装满了苦涩。⁵

[私の愛はまるで一杯の苦いコーヒーみたいに苦味で溢れている。]

- d. 哈根达斯，给你爱的味道！

[ハーゲンダッツ、あなたに恋の味を！]

例(9)が示す通り、〈食べもの〉としての〈恋愛〉もある。そして、例(9b)

(9c)が示すように、〈恋愛〉は味のあるものとして理解されている。なお例(9d)は広告のキャッチフレーズであるが、〈愛は甘い食べもの〉というメタファーを利用した興味深い一例である。〈恋愛は食べもの〉における対応関係は図7のように示される。

起点：食べもの	目標：恋愛
鮮度	⇒ 愛の新鮮さ
食べものの味	⇒ 愛の味
食べものを味わう	⇒ 恋愛をする

【図7】 〈恋愛は食べもの〉における対応関係

3.6 〈恋愛は移動物〉

(10) a. 爱说来就来说走就走

[愛は来るのも去るのも早い]

b. 可爱情总是不经意地来到你身边

[しかし愛はいつも不意に傍に来るものである]

c. 拿什么拴住我们的爱情?

[何を以って我々の愛を縛り付けることができるのか?]

例(10)では〈恋愛〉がある種の〈移動物〉として概念化されている。ここから両者の間に存在する次のような対応関係が読みとれる。

起点：移動物	目標：恋愛
移動物がやってくる	⇒ 愛がやってくる
移動物が去っていく	⇒ 愛が去っていく
移動物を掴む	⇒ 愛を掴む

【図8】 〈恋愛は移動物〉における対応関係

3.7 〈恋愛は植物〉

(11) a. 我种下了我们的爱情

[私は私たちの愛の種を撒いた]

b. 不是每种爱情都会生根发芽!

[すべての恋が芽生えるというわけではない!]

c. 孕育很久的爱情蓓蕾也随之盛开，他们一年后喜结良缘。

[ずっと育ててきた愛の蕾も開き、一年後彼らは縁を結んだ。]

d. 怎样浇灌的爱情之花才会常开不败?

[どのようにすれば恋の花は枯れずに咲き誇ることができるのであろうか?]

e. 他们的爱情已经到了瓜熟蒂落的时候。

[彼らの愛はすでに実るところまで来た。]

f. 怎样才算是收获了真正的爱情?

[どうすれば本当の愛を得る(収穫する)ことができるのだろうか?]

例(11)では〈恋愛〉が〈植物〉として概念化されている。そこには、〈種を撒く〉—〈根がつく〉—〈芽生える〉—〈蕾がつく〉—〈花が咲く〉—〈実

る) — (収穫する) という (植物) の成長過程に関する一連の表現が体系的に (恋愛) を表すのに用いられている。例 (11) の各例には以下のような写像もしくは対応関係が含意されている。

起点：植物	目標：恋愛
種撒き	⇒ 愛の始まり
芽から蕾	⇒ 愛の発展段階
花から実	⇒ 愛の盛期
枯れる	⇒ 愛の終焉
実の収穫	⇒ 愛の収穫

【図 9】 〈恋愛は植物〉における対応関係

3.8 〈恋愛は旅〉

(12) a. 女孩离开男孩后……又开始了新的征程。

[女の子が男の子と別れた後…また新たな旅が始まった。]

b. 但是甄子丹情路走来却是跌跌撞撞

[しかし甄子丹の恋の道は平坦ではなかった]

c. 毕业让他们分道扬镳。

[卒業を機に彼らはそれぞれ異なった道を歩むことになった。]

〈旅〉に〈起点〉 — 〈経路〉 — 〈終点〉が存在するように、我々は〈恋愛〉を理解する際にも、そうした過程になぞらえてメタファー的に理解することができる。例 (12a) ~ (12c) はそれぞれ〈恋愛〉における〈起点〉〈経路〉〈終点〉に焦点が置かれたメタファー表現である。例 (12) からは、〈恋愛は旅〉における次のような対応関係が読みとれる。

起点：旅	目標：恋愛
旅人	⇒ 恋人
一緒に旅に出る	⇒ 恋を始める
旅の過程で出くわす障害物	⇒ 恋愛関係にある障害
旅の中断	⇒ 別れる

【図 10】 〈恋愛は旅〉における対応関係

3.9 〈恋愛は戦争〉

(13) a. 我不想用计谋追女生

[私は恋愛術を使って女の子を追いかけたくない]

b. 这是你爱情攻势中最重要的一步

[これが恋の攻勢の中で最も重要な一歩である]

c. 这类男人通常会把女人当成战利品。

[このタイプの男は通常女を戦利品と見なす]

d. “男人的占有，就好比是打仗的阵地，只要进驻了，就算得到了，很快就要撤退。而女人的占有，那是细菌蚕食，……男人就是铜，女人就是锈，最终锈会把铜的颜色全部覆盖。阵地全失啊！”

[男の独占は戦争の陣地と同じで、入れば占領したと思ってすぐに撤退する。しかし、女の独占は細菌のようにじわじわと侵す。…男は銅で、女はその錆び、最終的に錆びは銅を完全に浸食し、陣地は完全になくなる。]

〈戦争〉に関する一連の知識もまた〈恋愛〉の持つ一側面を特徴づけることができる。言い換えれば、我々は〈戦争〉に関する理解の仕方を通して〈恋愛〉を理解することができる。その結果、恋も戦争と同様、両陣営が策略を用いて相手の陣地を攻め、勝利した側が「戦利品」を獲得することができる。例(13d)はある小説の一節であるが、そこでは男側の攻め方と女側の攻め方の違いがメタファーの力を借りて表現されている。〈恋愛は戦争〉にみられる対応関係は図11のように示される。

起点：戦争	目標：恋愛
敵	⇒ 恋する相手
敵を征服する	⇒ 恋の相手をコントロールする
策謀	⇒ 恋愛関係を結ぶために使う手段
陣地がなくなる	⇒ 相手に屈する

【図11】 〈恋愛は戦争〉における対応関係

以上、「中国語における主な〈恋愛〉のメタファーとは何か」という一つ目の問題について分析した。次節では、二つ目の問題である「これらのメタファーの基盤となっているのは何か」について考察していく。

4. 中国語における〈恋愛〉のメタファー基盤

本節では、従来の研究を踏まえてメタファー基盤の認定基準を明確にしな
がら、鍋島 2011 によるメタファー基盤の分類基準に従って第 3 節で取り上
げた中国語にみられる九つの〈恋愛〉のメタファー基盤について考察する⁶。

4.1 共起性基盤

- (14) a. Prices went up/ sank.
b. Profits rocketed 23% in one year.

(例 (14) は高尾 2003 : 211)

- (15) a. 怒りにもえる
b. 烈火の如く怒る

例 (14) (15) は共起性に基盤を置くメタファーの典型例である。例えば、
コップに水を入れると水の量が増加すると共に水の嵩が増すという日常経
験から、数量と高さがある種の相関(ないし共起)関係を有することが分か
る。怒ることと怒ったときに生じる生理反応についても同様である。このこ
とから事態 A を経験すると同時に事態 B をも経験するのであれば、事態 A、
B は共起性関係にあると言える。この認定基準に従えば、第 3.1 節及び第 3.2
節でみた中国語における〈熱〉と〈火〉のメタファーの基盤はいずれも共起
性であると考えられる。なぜなら我々が愛を経験する際に、それにより生じ
る生理反応(例えば恋人の前でまたは恋人同士の肌と肌が触れ合うことで
体温が上がるなど)をも同時に経験するからである。

4.2 構造的基盤

従来の認知メタファー理論(例えば Lakoff 1993)では、第 4.1 節でみた
共起性が唯一の基盤であるとされてきた。しかし、共起性だけでは以下に示
されるようなメタファーの基盤をうまく説明することができない。

- (16) a. 金を吸い取る
b. 原発の交付金で地域が潤う

例 (16) では〈金銭〉は〈水〉として概念化されているが、水の中で金を使
うことや、金を取り扱う際に人間の生理反応として涙や汗が出ることなどが
想定しにくいいため、その基盤は共起性ではないと分かる。鍋島 2003、2011
では、〈金銭〉と〈水〉をつなぐものは〈連続体〉のイメージ・スキーマ(以
下「IS」)であるとし、構造的基盤になることが主張されている。このこ

とからあるメタファーの起点領域と目標領域からある共通した IS を想定することができるのなら、もしくは起点領域と目標領域が同時にある IS の具体事例であると考えられるなら、このメタファーの基盤は構造的であると認定することができる。従ってこの基準に合致する（第 3.3 節及び第 3.6～3.9 節でそれぞれみた中国語における）〈電磁気〉〈移動物〉〈植物〉〈旅〉〈戦争〉のメタファー基盤はいずれも構造的であると言える。より厳密にいうと〈恋愛〉と〈電磁気〉から〈力〉の IS のバリエーションの一つである〈引き合う力〉が共通して想定されるため、〈力〉の IS が基盤であるのに対し、〈恋愛〉と〈移動物〉〈植物〉〈旅〉〈戦争〉をつなぐものは〈線と移動〉の IS であると言える。なぜなら目標領域である〈恋愛〉と、起点領域である〈移動物〉〈植物〉〈旅〉〈戦争〉の間からそれぞれ〈始まり〉—〈経過〉—〈終わり〉を想定することができるからである（図 12 参照）。

〈移動物〉	移動し始める — 経過 — 移動し終わる
〈植物〉	種-芽 — 蕾 — 花 — 実
〈旅〉	出発 — 経過 — 終点
〈戦争〉	攻め始める — 経過 — 勝敗がつく

【図 12】 メタファーの基盤としての〈線と移動〉の IS ただし、〈線と移動〉の IS 以外に〈戦争〉のメタファーには〈対抗する二つの力〉が存在するため、基盤として〈力〉の IS も認められる。

4.3 評価性基盤

前節で検討した構造的基盤同様、評価性（または「価値」（value）、「判断」（judgment）、「評価」（evaluation））もまた、これまでの認知メタファー理論においてそれほど重要視されてこなかった。しかし、共起性の観点からうまく捉えられない例（17）（18）の基盤に関する問題は、評価性の観点から容易に解決することができる。

- (17) a. 灰色高官/身の潔白を証明する 〈善は白・悪は黒〉
 b. 汚れた政治家/汚職事件 〈善は奇麗・悪は汚れ〉
 c. 不潔な行為/クリーンな政治家 〈善は清潔・悪は不潔〉

（例（17）は鍋島 2011:110）

〈白〉〈奇麗〉〈清潔〉はいずれもプラスの評価性を有するのに対し、〈黒〉〈汚れ〉〈不潔〉はマイナスの評価性を有する。これは〈善〉〈悪〉の持つ

評価性と一致する。同様にマイナスの評価性を持つ〈問題〉は、同じマイナスの評価性を持つ〈敵〉〈重荷〉〈障害物〉などとして概念化されやすい。

- (18) a. 問題と戦う 〈問題は敵〉
 b. 問題を背負う 〈問題は重荷〉
 c. 問題を乗り越える 〈問題は障害物〉

(例 (18) は鍋島 2011:111)

以上をまとめると、メタファーの起点領域と目標領域には共通した評価性が想定することができるなら、その基盤を担っているものは評価性であると考えてよい。この基準に従えば、第 3.4 節及び第 3.5 節で取り上げた中国語における〈脆いもの〉と〈食べもの〉のメタファーは評価性に基盤を置くメタファーであると考えられる。具体的にいえば〈恋愛は脆いもの〉はマイナスの評価性に基づいているのに対し、〈恋愛〉は〈甘いもの〉として捉えられる際にはプラスの評価性に、〈苦いもの〉として捉えられる際にはマイナスの評価性に基づいたものとなっている。

5. おわりに

本稿では認知メタファー理論の立場から、中国語話者が〈恋愛〉という抽象的な概念を理解する際に用いる九つのメタファー、及びそれぞれのメタファー基盤を考察した。今後は中国語における〈恋愛〉のメタファーについて、他の言語との比較なども視野に入れつつ、分析を進めていきたい。

注

- 1 英和辞典における英語の“LOVE”の訳語として「恋」「恋愛」「愛」など複数の候補があるが、本稿では治山 2006 に倣い「恋愛」という訳語を採用する。ただし、概念レベルの〈恋愛〉を具現化する表現として「恋」、「愛」などを用いた。なお、英語以外の言語における〈恋愛〉メタファーの研究としては、フランス語を題材とした治山 2006 がある。
- 2 「動機付け」ともいう。ここでは鍋島 2011 に従い、「基盤」という用語を用いる。
- 3 以降提示する九つのメタファー以外に、次の例 (a) (b) が示すように、〈恋愛は液体〉や〈恋愛はユニット〉といったメタファーも中国語において観察される。
 - a. 陷入爱的漩涡里无法自拔
 [愛の渦巻きに陥って自力で抜け出すことができない]

- b. 有时候命运把恋人结合在一起，只是为了拆散他们。
 [ときには運命が恋人同士を結ぶのも別れさせるためである。]
- 4 ここでいう〈火〉という概念は、〈熱を発して燃えているもの〉を表す。
- 5 例(9c)はシミリ(明喩)であるが、本稿では鍋島 2011:3-4 に従い、シミリをメタファーの一部として同列に捉える。
- 6 本稿でいう「基盤」は、中国におけるメタファー研究では“喻底”という。ただしこれは、表現レベルにおけるメタファーの存在理由を表す概念である。例えば東定芳 2000 では、“喻底”がメタファー表現に現れる位置に基づいて“喻底前置性隱喩”(例: Silly ass!)と“喻底后置性隱喩”(例: cherry red)の二つに大別できることが述べられている(詳細は東定芳 2000:27を参照)。その意味では本稿でいう「基盤」という概念とは必ずしも一致しない。

引用文献

- 韓涛 2010. 「感情のメタファーはメトニミーに基づくか：中国語のケース」, 『日本認知言語学会論文集』第10巻, pp.502-512.
- 治山純子 2006. 「フランス語の感情表現のメタファー—恋愛に関するメタファー表現の研究—」, 『Résonances』第4号(東京大学大学院総合文化研究科), pp.68-74.
- 鍋島弘治朗 2003. 「メタファーと意味の構造的性」, 山梨正明他(編)『認知言語学論考 No. 2』, ひつじ書房, pp.25-110.
- 鍋島弘治朗 2007. 「領域をつなぐものとしての価値的類似性」, 楠見孝(編著)『メタファー研究の最前線』, ひつじ書房, pp.179-200.
- 鍋島鍋島弘治朗 2011. 『日本語のメタファー』, くろしお出版.
- 高尾享幸 2003. 「メタファー表現の意味とメタファー」, 松本曜(編著)『認知意味論』, 大修館, pp.187-249.
- 東定芳 2000. 〈論隱喩の基本类型及句法和语义特征〉, 《外国语》(上海外国语大学)第1期, 20-28页.
- Kövecses, Z.1986. *Metaphors of Anger, Pride, and Love: A Lexical Approach to the Study of Concepts*. Amsterdam: John Benjamins.
- Kövecses, Z.1990. *Emotion Concepts*. New York: Springer Verlag.
- Kövecses, Z.2002. *Metaphor: A practical introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Kövecses, Z.2003. *Metaphor and Emotion*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, G. 1987. *Women, fire, and dangerous things*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Lakoff, G. 1993. “The contemporary theory of metaphor”. In Ortony, A ed. *Metaphor and thought*. Cambridge: Cambridge University Press, pp.202-251.
- Lakoff, G.and M.Johnson.1980. *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, G. and M.Johnson.1999. *Philosophy in the flesh*. New York: Basic Books.